



# 越中富山 福野 夜高祭

よたか  
まつり

5月1日・2日

4月30日 前夜祭  
1日 全町夜高行燈練り回し  
2日 全町夜高行燈練り回し・引き合い  
3日 4町曳軸巡行

会場  
富山県南砺市  
福野中心商店街

お問合せ  
福野夜高祭連絡協議会  
☎0763-22-1120



# 夜高あんどんの起源と由来

慶安3年(1650年)、阿曾三右衛門が藩へ市場町を開きたいと願い出ていた「町立て」が許可されました。慶安5年(1652年)、大火に遭いほとんどの家が焼失してしまいました。

そこで町の再建と安全を願って、神明社を創建することとなり、氏神様として伊勢神宮から御分霊<sup>かんじょう</sup>を勧請することになりました。その御分霊を奉じた一行が、俱利伽羅峠に差しかけた頃、日暮れとなりました。これを知った町民が手に手に燈火用の家庭の行燈を持って、この行列をお迎えしたことが、夜高あんどんの起源になったとの伝承があります。

弘化年間(1844~1846年)の記録には神迎えと言われ、明治初年の記録には、「献燈」または「敬観燈」とも記されています。

毎年5月1日~2日に盛大に行われる夜高あんどんの練り回しは「神迎え」の神事としての宵祭りです。5月3日の本祭りに行われる御神輿の町内御巡幸、曳軸及び屋台の巡幸曳きが一連の春季祭礼行事とされ、昭和初期まで続けられていました。

伝えられているところによると、文久年間(1861~1864年)に横町、浦町、新町に約12 mの夜高あんどんが作られました。明治25年(1892年)に電信線ができて、夜高あんどんの高さが制限され、2丈5尺(7m58cm)より高いものは作ってはならないことになりました。しかし、それがいっこうに守られないため、明治28年(1895年)、五月祭礼献燈取締規則17条が宮総代によって出されました。これにより神明社に参拝する順序も詳しく決められ、夜高あんどんは町端に行った証明を受けることになりました。また、夜高あんどんが出会ったときは、下りあんどんは、上りあんどんに道を開けることも決まりました。

明治42年(1909年)に、全町に電話線がかけられたので、その翌年から夜高あんどんの高さは2丈1尺(6m36cm)に制限され、今日に至っています。

夜高あんどんは、太鼓や拍子木の囃子で夜高節を唄いながら町中を練り廻ります。歌詞には古いものと新しいものがあり、唄う調子によって上り唄、引き合い(休み)唄、下り唄の三つに区別されています。昭和8年(1933年)、詩人の野口雨情が来町して、福野小唄や夜高あんどんの歌を数種作っています。「からす鳶は底なし空ヨ 笛や太鼓でササ飛びまわる」はその一つです。

平成2年(1990年)、猿が辻に夜高あんどんシンボルタワーが建てられ、平成12年(2000年)、開町350年記念として、高さ12 mの文久の夜高あんどんが再現されました。平成16年(2004年)、夜高あんどんは県から「無形民俗文化財」に指定されました。

現在、横町、上町、七津屋、御蔵町、新町、浦町、辰巳町の大あんどん7本、中あんどん・小あんどんと合わせて23本が、五月空を勇壮華麗に福野の町中を練り廻っています。

夜高あんどんは、これまで、金沢の「前田利家公300年」、東京銀座の「光のパレード」、京都の「民俗芸能大会」、名古屋祭、多度津の「町制100周年」などに参加しています。また、横町の大あんどんが、福野文化創造センター(ヘリオス)に常設展示されています。

